

事業所名

児童発達支援 ぶれらぼ

支援プログラム（参考様式）

作成日

R6

年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		全ての学びはあそびから					
支援方針		子ども一人ひとりに寄り添い、個々の発達段階に即した支援を行います。					
営業時間		9 時	0 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	基本的生活習慣の習得や、健康維持・管理など生涯必要とされる力の基礎を育むため、子ども一人ひとりに即した適切な支援方法を考え、支援します。 手洗い、食事、排泄、着脱の方法を個別に伝えたり、視覚的な支援等、直接支援・間接支援をします。 生活やあそびの中で丁寧に環境構成をすることで、適切なスキル獲得を支援します。					
	運動・感覚	自己選択・自己決定を基本としながら、Playing Labを継続的に取り組む。幼児期に身につけたい36の動きを基本として、体を移動する動き・体のバランスを取る動き・用具を操作する動きを中心に遊具・用具を使用し、環境構成内に自然と動きが引き出されるように取り入れる。 小集団の中でルールのあるあそびや、リズム運動で音楽に合わせて体を動かす経験を取り入れ、支援します。					
	認知・行動	小集団での生活やあそびを通して、3時間の時間をどのように過ごすかを始まりの会やあそびながら考えられるように働きかけます。終わりの時間は決まっているので個性に合わせて必要な場面で声掛けや視覚支援などを行い、ぶれらぼでの生活に困らないように支援します。 場面により適切な行動へとつながるように、SST・構造化・環境調整等を活用しながら適切な認知・行動へ繋げるよう支援します。					
	言語コミュニケーション	身近な友だちや大人と関わる中で言葉や身振り、手振り、アイコンタクトなどを使いながら自分の思いや意志が伝えられるように支援します。 また、ままごとあそびや声真似するぬいぐるみ、文字積み木など本人の興味・関心に基づいた道具なども適宜使いながら発声や言語コミュニケーションにつながるように関わりを深めていきます。					
	人間関係社会性	小集団で過ごす場の子ども同士、大人との見る・見られる関係性の中で模倣や興味・関心の広がりを持てるように、生活やあそびの環境の構成をしていきます。 生活やあそびの中で順番をまったり、同じ時間に同じことをやろうとしたり、場面に合わせ必要に応じた環境の調整、介入を行うことで、支援をします。 人と関わることでトラブルも経験しながらも適切なやり取りを通じた快の感情を感じられる経験を多く持てるよう支援します。					
家族支援		家庭での生活やあそびの様子を面談や送迎時、連絡帳などを通じて丁寧に聞き取りを行う。			移行支援		就学や就園に向けて移行できるように家庭との相互支援に取り組む。
地域支援・地域連携		並行利用している、保育園や幼稚園、療育施設などの情報を面談や送迎時などを通じて聞き取りすることで事業所での支援に活かす。			職員の質の向上		・実践の振り返り動画研修、児童発達支援ガイドラインに基づく支援など支援に関する基盤となる研修 ・その他各種法令、
主な行事等		7月 夏祭り 12月 クリスマス 1月 お正月あそび 2月 豆まき					